

《専門科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	武内 道郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する教育課題を理解する。適宜、最新の教育ニュースを話題に出し、現代の教師に課せられた義務、果たすべき責任について、積極的な姿勢を培う。

《テキスト》

坂野慎二・湯藤定宗編著「学校教育制度概論〔第三版〕」玉川大学出版部 2022

《参考図書》

参考資料としてプリントを使用する。

《授業の到達目標》

公教育の原理及び理念を説明できる。
教育法規、日本や海外の教育制度について説明できる。
就学前教育から高等教育、生涯学習まで、その仕組みを説明できる。
学校を巡る近年の教育政策の動向について述べるができる。

《授業時間外学習》

・準備学習としてテキストを予め読み、事後学習として専門用語についての理解を深めておく。
・予習、復習（概ね4時間）の自己学習が望ましい。
・課題についてレポートを作成する。
（本授業では60時間の時間外学習が必要で。）

《成績評価の方法》

定期試験40%、課題レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

毎授業時に実施する課題レポートは、次回の授業の中でコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公教育の基本原則	学校とは何か、教育の目的と公教育の原理。 [時間外学習] テキストのP.11～19を読んでおくこと。
2	公教育の基本原則 教育法規	教育法規、日本の教育の現状について。 [時間外学習] テキストのP.19～26を読んでおくこと。
3	学校教育制度 幼稚園	就学前教育制度の概要、幼稚園について。幼稚園の減少理由(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.27～37を読んでおくこと。
4	学校教育制度 保育所・認定こども園	保育所、認定こども園と就学前教育制度の状況。待機児童問題(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.38～47を読んでおくこと。
5	学校教育制度 義務教育	義務教育制度、その現状と課題について。就学義務と教育義務(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.49～59を読んでおくこと。
6	学校教育制度 特別支援教育	特別支援教育制度及びその国際動向について。 [時間外学習] テキストのP.59～67を読んでおくこと。
7	教育政策の動向 学習指導要領	学習指導要領、様々な会議について。3つのポリシーについて(調べ学習)。 [時間外学習] 学習指導要領の変遷について調べておくこと。
8	教育政策の動向 国内の教育を巡る動き	国内の教育を巡る動きについて。これから必要な能力について(グループ協議)。 [時間外学習] 高大接続改革、教育振興基本計画について調べておくこと。
9	学校教育制度 高等学校	後期中等教育の概要について。高校進学率の上昇について(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.69～73を読んでおくこと。
10	学校教育制度 後期中等教育の多様化	後期中等教育の多様化及びその費用について。高校入試制度(調べ学習)。 [時間外学習] テキストのP.74～85を読んでおくこと。
11	高等教育と生涯学習 高等教育機関	高等教育機関の種類について。 [時間外学習] テキストのP.87～93を読んでおくこと。
12	高等教育と生涯学習 高等教育機関の役割	高等教育の社会的役割と生涯学習について。生涯学習の役割(グループ協議)。 [時間外学習] テキストのP.87～103を読んでおくこと。
13	教育行政制度 文部科学省	国の教育行政制度の基礎、教科用図書について。 [時間外学習] テキストのP.105～115を読んでおくこと。
14	教育行政制度 国・地方の教育行政	国の教育行政の諸領域、地方教育行政の基礎について。 [時間外学習] テキストのP.115～131を読んでおくこと。
15	教育行政制度 地方教育行政の役割	地方教育行政の役割と教育財政について。 [時間外学習] テキストのP.131～140を読んでおくこと。

《専門科目》

科目名	子どもの食と栄養				
担当者氏名	大野 智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

子どもの健全な発育・発達に欠かせない乳幼児期の適切な栄養摂取の方法や食生活についてを学ぶ。
 具体的には、基本的な栄養学の知識を身に付けた上で、子どもの栄養の重要性や発育・発達、成長に応じた栄養の必要性を知る。また、子どもに多い疾患やその際の食事管理や必要な食事の取り方などの基本を理解する。さらに、子どもや保護者に食の大切さを伝える視覚媒体の作成も行う。

《授業の到達目標》

栄養素の基本を理解し、活用できる。
 育児用粉乳の衛生的で安全な取り扱い、正しく調乳できる。
 離乳食について理解し、進め方について正しく伝えられる。
 乳幼児期の栄養の特性や、年齢に応じた食生活を説明できる。
 食事のマナーや作法を理解し子どもに正しく伝えられる。
 衛生面に配慮し、安全に食育活動をすすめることができる。
 年間行事と行事食を理解し、保育に生かすことができる。

《成績評価の方法》

評価は、筆記試験（40%）、小テスト（20%）課題・レポート（20%）、媒体発表・態度（20%）で評価し、60点以上を合格とする。
 出されたか課題は、期日までに作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの食生活と健康の意義	小児と成人の栄養との違いを知り、適切な栄養管理を学ぶ。また、成人とは異なる食生活の特徴を学ぶ。〔準備学習〕テキストのP11～19を事前に読んでおくこと
2	小児の発育・発達と栄養	子どもの身体発育や食べる機能の発達について理解し、その発育・発達に沿った栄養状態の把握の仕方について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP21～34を事前に読んでおくこと
3	栄養に関する基礎知識	栄養学の基本的理論を学び健全な成長のためどのような食品を摂取すると良いかを理解し食事バランスの評価力を養う。〔準備学習〕テキストのP35～49を事前に読んでおくこと
4	栄養に関する基礎知識	日本人の食事摂取基準、基礎代謝、機能性食品、各種換算係数、PFC比率、食事バランスガイド等について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP50～61を事前に読んでおくこと
5	栄養に関する基礎知識	バランスの取れた献立作成方法と調理の基本を学ぶ。盛り付けや切り方などの調理の工夫を知り実践できる。〔準備学習〕テキストのP62～71を事前に読んでおくこと
6	乳児期の食生活	乳児期は、食機能の発達が著しい時期で、幼児期に向けて自分で食べる能力を獲得していく特徴について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP73～85を事前に読んでおくこと
7	乳児期の食生活と栄養（実習）	調乳に必要な器具や備品を衛生面に配慮し調乳・洗浄ができる。離乳期の区分を理解し、各期の調理形態を学ぶ。〔準備学習〕テキストのP85～103を事前に読んでおくこと
8	幼児期の食生活 間食の意義と役割	幼児期は生涯にわたる食生活の基礎が形成される。保育者としての支援のあり方などを考えながら学ぶ。〔準備学習〕テキストのP105～118を事前に読んでおくこと
9	学童期・思春期の食生活	この時期特有の身体的発育・発達構造を理解したうえで、生活習慣予防を視野に入れた栄養・食生活について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP119～130を事前に読んでおくこと
10	生涯発達と食生活	生涯発達の視点から、出生前の胎児期から死に至るまでの生涯にわたる食生活について学ぶ。〔準備学習〕テキストのP131～139を事前に読んでおくこと
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	特別な配慮を要する子どもの「食と栄養」に視点を当てその方法を学ぶ。〔準備学習〕テキストのP141～152、P157～165を事前に読んでおくこと
12	家庭や児童福祉施設における食生活	各施設の特徴を捉え、家庭との連携について学ぶ。食物アレルギーについても配慮できる。〔準備学習〕テキストのP152～156、P167～181を事前に読んでおくこと
13	食育－食を通して、子育てと子育てを支援する－	食を通して、子育て支援をどのように支援することができるのかを学ぶ。〔準備学習〕テキストのP183～208を事前に読んでおくこと
14	行事と食について （媒体発表）	それぞれのテーマに基づき作成した、行事と食についての媒体を発表する。〔準備学習〕与えられた発表時間を守り発表できるよう練習しておくこと
15	行事と食について （媒体発表）	それぞれのテーマに基づき作成した、行事と食についての媒体を発表する。〔準備学習〕与えられた発表時間を守り発表できるよう練習しておくこと

《テキスト》

・子どもの食生活 第6版 編著：上田玲子ほか ななみ書房
 ・新ビジュアル食品成分表「新訂第二版」大修館書店

《参考図書》

「食育実践ハンドブック」
 明日の授業で生かせるアイデア70 三省堂
 子育て・子育てを支援する「子どもの食と栄養」萌文書林
 楽しくわかる「栄養学」羊土社
 「栄養の基本がわかる図解事典」栄養用語がまるわかり！
 成美堂出版

《授業時間外学習》

ノートは各回ごとに回数、月日を記入し講義・実習内容を見やすく、わかりやすくまとめること。必ず自書で作成する。
 あらかじめ示されたページを予習しておくこと。
 本授業では、予習・復習を含めて30時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

小テストは次回の授業において返却し、模範解答を行う。また、課題や媒体発表については、その都度コメントをしフィードバックする。

《専門科目》

科目名	健康領域指導法				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領に則り、子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養える保育・援助の方法について以下を中心にグループワークや模擬保育、実技を通して実践的に学ぶ。

遊びを中心とした保育と健康のねらい 動作の観察と評価
運動遊びの実践 安全管理と安全指導

《授業の到達目標》

幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育を構想し表現することができる。領域「健康」の特性を考慮した情報機器及び教材の活用ができる。指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善することができる。領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法》

授業における提出課題（30％）発表（30％）授業後に提出する小レポート（20％）最終課題（20％）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

○吉田伊津美 他編著：保育内容 健康 光生館 2018
○幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領

《参考図書》

○池田裕恵編著：子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」第二版 杏林書院 2018 ○河邊貴子 他編著：保育内容「健康」ミネルヴァ書房2020 ○岩崎洋子編：保育と幼児期の運動あそび 2018 第二版 萌文書林 2018 ○小櫃智子：幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド わかば社 2017 ○その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、各回の[準備学習]に示した内容を行い、授業に臨むこと。復習として、授業で学んだことをノートにまとめておくこと（本授業は15時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて1時間の自主学習を行ってください）。

《課題に対するフィードバック等》

授業後に提出する小レポートは、都度コメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育者の役割	領域「健康」の指導における保育者の役割について考える [準備学習]テキストのP76-P88を事前に読んでおく
2	領域「健康」にかかわる絵本	領域「健康」にかかわる絵本の活用の仕方を考える [準備学習]領域「健康」にかかわる絵本を選んでおく
3	領域「健康」に関する絵本の読み聞かせ	模擬保育 「健康」に関する絵本の読み聞かせ等の実践、相互評価（グループワーク） [準備学習]読み聞かせするにふさわしい絵本を事前に選び、読んでおく
4	反省と改善方法の検討	模擬保育 反省と改善方法の検討（グループワーク） [準備学習]前回の評価をふまえ、どのように改善工夫すべきか考えておく
5	指導案の立案	領域「健康」をテーマとした指導案の作成（グループワーク） [準備学習]「実習パーフェクトガイド」などの参考図書の指導案例を事前に読んでおく
6	指導案に基づく準備	模擬保育に向けての教材研究（グループワーク） [準備学習]テキストの模擬保育に関する箇所を読んでおくこと。加えて、必要な教材を準備しておく
7	指導案に基づく模擬保育と評価（1）食育	食育にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
8	指導案に基づく模擬保育と評価（2）生活習慣	生活習慣にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
9	指導案に基づく模擬保育と評価（3）安全	安全にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
10	指導案に基づく模擬保育と評価（4）健康	健康にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
11	指導案に基づく模擬保育と評価（5）運動遊び	運動遊びにかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
12	指導案の評価と改善	模擬保育の評価により見出された課題を検討し指導案を修正（グループワーク） [準備学習]模擬保育を振り返り、評価しておく
13	保育に生かす安全マップ（1）準備	安全マップ作成に向けての準備（グループワーク） [準備学習]テキストやこれまでのノート等の子どもの安全に関わる箇所を事前に読んでおく
14	保育に生かす安全マップ（2）作成	安全マップの作成（グループワーク） [準備学習]安全マップのレイアウトを考えておく
15	保育に生かす安全マップ（3）発表	安全マップの発表（グループワーク） [準備学習]作成した安全マップを紹介できるように準備しておく

《専門科目》

科目名	環境領域指導法				
担当者氏名	清水 誠				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

本授業では、グループワーク、討議・発表を通して、幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていくことができるための指導力を身につけることを目指す。具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付けるため、指導計画の作成と模擬保育を行う。加えて、保育者として必要なコミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル等を修得する。

《授業の到達目標》

- (1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を説明できる。
- (2) 領域の特性と幼児の体験との関連を考慮した教材及び情報機器の活用法を習得し、保育の構想に活用できる。
- (3) 具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- (4) 保育を改善する視点を身に付け、現代的課題や保育実践の動向を踏まえた保育構想の向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法》

全体で100%（総点100点）とし、「定期試験における筆記試験50%」、「発表及びレポート（学習指導案を含む）35%」、「主体的に学習に取り組む態度15%」の各評価の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

- ・実践例から学びを深める保育内容・領域 環境指導法、小櫃智子編著、わかば社

《参考図書》

- ・幼稚園教育要領解説 文部科学省、フレーベル館
- ・保育所保育指針解説 厚生労働省編、フレーベル館
- ・事例で学ぶ保育内容 領域「環境」新訂 無藤隆監修、紀伊國屋書店
- ・埼玉県「参考となる学習指導案集」www.pref.saitama.lg.jp/g2204/sidouan-you.html

《授業時間外学習》

- ・本演習科目では総計15時間の時間外学習が必要とされている。予習・復習として毎回1時間の学修が必要である。
- ・事前学習として、授業計画に示した学習内容についてテキストや文献等を検索してまとめてくる。
- ・事後学習として、学修を振り返り理解を深める。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたレポートや学びを振り返る（メタ認知する）ため毎授業で作成した学習履歴表は、コメントを付して翌週以降フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	領域「環境」の構想の視点及び指導	環境の学びを構想する視点、幼児の見方・考え方を踏まえた指導〔時間外学習〕幼児の体験や発達を理解するために必要な教師の視点をまとめてくる。
2	領域「環境」の指導方法と学習理論	領域「環境」の指導方法を学習理論から学ぶ。〔時間外学習〕幼児教育で示されている学習理論を収集してくる。
3	幼児の認識・思考等を踏まえた「環境」の構想	幼児の認識・思考等を踏まえた「環境」での学びを検討する。〔時間外学習〕保育「環境」の指導の事例についてまとめてくる。
4	指導案・日案の立案、環境構成と評価	指導案・日案の立案、環境構成、評価の考え方〔時間外学習〕「環境」の学習指導案（日案）を収集してくる。
5	保育構想と教材・情報機器の活用①自然に触れる	自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに気付かせる保育構想と実践（発表・討議）〔時間外学習〕自然と触れ合う機会や体験を育む指導方法を収集してくる。（内容1）
6	保育構想と教材・情報機器の活用 物に触れる	物の性質や仕組みに興味や関心をもたせ、大切にすることを育む保育（発表・討議）〔時間外学習〕物や道具に関して遊ぶ指導方法を収集してくる。（内容：2・7・8）
7	保育構想と教材・情報機器の活用 自然や季節	季節による自然や人間生活の変化に気付かせる保育構想と実践（発表・討議）（3.4）〔時間外学習〕自然とのかかわりや事象を取り入れて遊ぶ指導方法を収集してくる。
8	保育構想と教材・情報機器の活用 生命の尊重	生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする保育構想と実践（発表・討議）〔時間外学習〕飼育・栽培等、生命を大切にすることを育む指導方法を収集してくる。（内容5）
9	保育構想と教材・情報機器の活用 文化や伝統	様々な文化や伝統に親しみ、社会とのつながり等を持たせる保育構想と実践（発表・討議）〔時間外学習〕伝統的行事、わらべうた、遊び等の指導方法を収集してくる。内6
10	保育構想と教材・情報機器の活用 数量や図形	数量や図形などに関心を持たせる保育構想と実践（発表・討議）（内容9）〔時間外学習〕数量や図形に興味・関心を持たせる指導方法を収集してくる。
11	保育構想と教材・情報機器の活用 標識や文字	標識や文字などに対する興味や関心を持たせる保育構想と実践（発表・討議）〔時間外学習〕標識や文字に興味・関心を持たせる指導方法を収集してくる。（内10）
12	保育構想と教材・情報機器の活用 情報や施設	情報や施設などに関心を持たせる保育構想と実践（発表・討議）〔時間外学習〕情報や施設に興味・関心を持たせる指導方法を収集してくる。（内容：11）
13	保育構想と教材・情報機器の活用 国旗に親しむ	国旗に親しみ国際理解の意識の芽生えを育成する保育構想と実践（発表・討議）〔時間外学習〕国旗に接する機会や方法を検討してくる。（内容：12）
14	領域「環境」の指導を改善する視点	模擬保育の振り返りと領域「環境」を改善する視点（グループワーク・討議）〔時間外学習〕保育の場での事故、予防と対処法をまとめてくる。
15	保育実践の動向と保育構想	領域「環境」に関わる現代的課題や保育実践の動向と保育構想〔時間外学習〕保育実践の課題や動向、保育構想についてまとめてくる。

《専門科目》

科目名	言葉領域指導法				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

幼児の言語発達の過程や特徴を理解し、自分なりの言葉で表現したり、相手の話す言葉を聞こうとしたりする幼児の意欲や態度を育てるための保育のあり方を学ぶ。また、手袋人形や絵本の製作、またそれらを使った発表学修を通して指導技術を身に付ける。その際、グループワークや発表学修を通して主体的な学びを深める。また、毎時間のはじめに絵本の読み聞かせ、手遊び等の発表学修を行い、互いに感想を交流して深め合う。

《授業の到達目標》

幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」のねらい、内容、全体構造を踏まえ、幼児が経験し身に付ける言葉の特性や内容、またそのための指導方法や指導上の留意点、評価方法を知り、具体的な題材を通して領域のねらいを達成することができる。様々な題材を通して、幼児の言葉の成長を支えることの具体的なポイントを説明することができる。

《成績評価の方法》

作品提出及び発表70%、小レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

保育内容「言葉」と指導法（斎藤政子・編集）中央法規「パネルシアター用Pペーパー並口」ひかりのくに

《参考図書》

必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業時間外学習》

次の授業回で扱うテーマについて、幼稚園教育要領・保育所保育指針を精読した上で、文献・インターネット等を用いて製作物の素材を検索するなど、自己学習に努める。本授業では15時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

小レポートは、コメントを付して返却し、授業中に全体で解説してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	紙芝居 (1) 紙芝居の歴史	伝統文化の側面も含めた紙芝居の歴史を理解すること 〔時間外学習〕図書館で実際の紙芝居を手にとって、見ておくこと
2	紙芝居 (2) 発表・振り返り	紙芝居の演じ方を工夫し、子どもの言葉の発達との関係について考えること(グループワーク)〔時間外学習〕グループで選んだ紙芝居作品の発表の練習をしておくこと
3	手袋人形シアター(1) 製作の基本・構想	手袋人形の作り方、演じ方の基本について情報検索し、製作の構想を練ること 〔時間外学習〕動画サイトで手袋人形シアターについて調べておくこと
4	手袋人形シアター(2) 製作	演じ方をイメージしながら、手袋人形を製作すること 〔時間外学習〕発表に向けて製作を進めておくこと
5	手袋人形シアター(3) 発表・振り返り	互いに発表し合い、手袋人形シアターと幼児の言語発達について考えること(発表学修)〔時間外学習〕歌や言葉がけなどに注意しながら発表の練習をしておくこと
6	しかけ絵本・赤ちゃん絵本(1) 素材調べ	しかけ絵本・赤ちゃん絵本について様々な情報を集め、製作の構想を練ること 〔時間外学習〕ロバート・サブタのしかけ絵本について調べておくこと
7	しかけ絵本・赤ちゃん絵本(2) 製作	子どもの発達段階を意識した作品の製作を進めること 〔時間外学習〕製作に必要な材料・道具を準備しておくこと
8	しかけ絵本・赤ちゃん絵本(3) 仕上げ・練習	絵本作品を完成させ、効果的な読み聞かせについて工夫すること 〔時間外学習〕しかけ絵本の発表に向けて作業・練習を進めておくこと
9	しかけ絵本・赤ちゃん絵本(4) 発表・振り返り	製作した絵本を発表・鑑賞して、子どもの言葉の発達との関係について考えること(発表学修)〔時間外学習〕絵本を完成させて、発表の仕方を考え練習しておくこと
10	パネルシアター (1) しかけの理解	パネルシアターの様々なしかけを理解し、製作に向けた構想を練ること 〔時間外学習〕パネルシアターについて基本的な知識を調べておくこと
11	パネルシアター (2) 製作	パネル絵の製作、発表に向けた練習 〔時間外学習〕演じてみたいパネルシアターの内容を考えておくこと
12	パネルシアター (3) 発表・振り返り	パネルシアターを発表し合い、子どもの言葉の発達との関係について考えること(発表学修)〔時間外学習〕パネル絵を仕上げ、発表に向けて練習しておくこと
13	ペープサート (1) 基本的技法の理解	ペープサートの基本的な知識について理解し、製作に向けた構想を練ること 〔時間外学習〕ペープサートについて基本的な知識を調べておくこと
14	ペープサート (2) 製作	ペープサートパネルの製作、発表に向けた練習 〔時間外学習〕演じてみたいペープサートの内容を考えておくこと
15	ペープサート (3) 発表・振り返り	ペープサートを発表し合い、子どもの言葉の発達との関係について考えること(発表学修)〔時間外学習〕ペープサートを仕上げ、練習しておくこと

《専門科目》

科目名	乳児保育				
担当者氏名	小澤 美鈴				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

現代の子育て世帯の抱える状況を考慮し、職員、保護者、地域、他機関 などの連携の重要性を理解し、保育者に求められている様々な役割、3歳未満児の保育について、乳児保育 の内容を踏まえ、グループワークを行い、具体的な演習や事例検討をとおして実践的な理解を深め、自らの知識技術を修得し、主体的な学びを深める。毎時間に絵本の読み聞かせや手遊び等の発表を行い、互いに技術習得につなげていく。

《授業の到達目標》

- ・3歳未満児の発育、発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本を理解し、説明することができる。
- ・養護と教育を踏まえた、3歳未満児の生活と遊び、保育の方法、環境について具体的に理解し、説明することができる。
- ・乳児保育における配慮の実践について、具体的な方法を理解し、説明、実践することができる。

《成績評価の方法》

課題への取り組み（20%）・中間課題（40%）・最終課題（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳児保育の基本	子どもと保育者との関係性の重要性、個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて理解する〔時間外学習〕教科書第1講を読んでおくこと
2	0歳児クラスにおける生活と遊びの実践	0歳児クラスの生活の流れについて理解する〔時間外学習〕教科書第1講を読んでおくこと
3	0歳児クラスにおける保育環境	0歳児クラスの保育環境について理解する〔時間外学習〕教科書第2講を読んでおくこと
4	0歳児クラスの援助の実践（1）	0歳児クラスの援助の実践を理解する（おんぶ、だっこ、オムツ交換、衣服の着脱）〔時間外学習〕教科書対象の内容を読んでおくこと
5	0歳児クラスの援助の実践（2）	0歳児クラスの援助の実践を理解する（調乳、授乳、離乳食）〔時間外学習〕教科書対象の内容を読んでおくこと
6	1歳児クラスにおける生活と遊びの実践	1歳児クラスの生活の流れ、保育環境について理解する〔時間外学習〕教科書第5・6講を読んでおくこと
7	1歳児クラスの援助の実践	1歳児クラスの援助の実践を理解する〔時間外学習〕教科書第7講を読んでおくこと
8	2歳児クラスにおける生活と遊びの実践	2歳児クラスの生活の流れ、保育環境について理解する〔時間外学習〕教科書第8・9講を読んでおくこと
9	2歳児クラスの援助の実践	2歳児クラスの援助の実践を理解する〔時間外学習〕教科書第10講を読んでおくこと
10	心身の健康、安全、情緒の安定を図るための配慮	子どもの心身の健康、安全、情緒の安定を図るための配慮を理解する〔時間外学習〕教科書第11講を読んでおくこと
11	集団での生活における配慮	集団での生活における配慮について理解する〔時間外学習〕教科書第12講を読んでおくこと
12	環境の変化や移行に対する配慮	各学年における進級時の環境の変化や移行に対する配慮について理解する〔時間外学習〕教科書第13講を読んでおくこと
13	保育看護について	体調不良時の早期発見、対応の仕方、身体測定方法について理解する〔時間外学習〕教科書対象の内容を読んでおくこと
14	乳児保育における計画の実践	個別的な指導計画と集団の指導計画について理解する〔時間外学習〕教科書第14・15講を読んでおくこと
15	家庭との連携	連絡帳の目的と書き方 連絡帳の記入〔時間外学習〕教科書対象の内容を読んでおくこと

《テキスト》

- 「乳児保育」中央法規
- 「保育所保育指針と解説書」

《参考図書》

- 「乳児の発達と保育」エイデル研究所
- 「保育を変える記録の書き方評価のしかた」今井和子 ひとなる書房

《授業時間外学習》

次回の授業内容を保育所保育指針、テキストの該当ページを精読し、文献やインターネット等を利用し、自己学習をする。専門用語については、参考書等を用いて事前調べを行う。教員からのフィードバックを基に、学習内容を振り返る。本授業では、15時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

各回の学びについて共有し、前回の振り返りと受講者の学びの観点について確認とフィードバックを行う。

《専門科目》

科目名	特別支援保育				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育の現場では、さまざまなニーズのある子どもたちへの理解に基づいた個別の対応が求められている。本授業では、特別支援保育に関する基礎的知識や技法を、事例を通してグループディスカッションなどを通して実践的に学ぶ。また、さまざまな子どもたちがともに学ぶための合理的配慮や、実際の現場で求められる家庭や関係機関との連携について学び、特別支援保育での具体的な保育展開力につなげる。

《授業の到達目標》

障害児保育や特別支援保育についての理念から、保育者の役割について説明することができる。

各障害の定義と特性について説明することができる。

障害の特性に合わせた支援法や配慮、環境構成について論じることができる。

家庭および関係者との連携の取り方について論じることができる。

《成績評価の方法》

授業の到達目標に基づき、課題等提出物20%、授業内の取り組み・発言等20%、定期試験60%で評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

前田泰弘編著「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」第2版 萌文書林,2024

《参考図書》

「幼稚園教育要領 平成29年告示」フレーベル館
 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示」フレーベル館
 「保育所保育指針 平成29年告示」フレーベル館
 「特別支援学校幼稚園部教育要領・小学部学習指導要領 平成29年4月告示」海文堂出版

《授業時間外学習》

授業計画に示した教科書の範囲に沿って、予習や復習に取り組んでください。また、インターネット記事や、TV・映画・書籍などを通して、特別なニーズのある子どもや家族の立場を理解したり、身近にどのような支援の場があるかなどについて調べ、考察につなげるようにしましょう。
 (本授業では15時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

授業内の発表・発言に対してコメントでフィードバックします。提出課題については、全体で共有して、意見交換による学びを深めることがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育・特別支援保育とは	「障害」とは何かについて学び、インクルージョン保育の理念について知る。 予習：教科書p12～22 復習：授業配布プリント
2	障害児保育・特別支援保育の基本	発達の見方と評価の方法について学ぶ。 予習：教科書p23～39 復習：授業配布プリント
3	知的障害の理解と保育	知的障害の理解と保育の実際について学ぶ。 予習：教科書p40～50 復習：授業配布プリント
4	肢体不自由の理解と保育の計画	4章肢体不自由について学ぶ。8章保育の計画について学ぶ。 予習：教科書p51～59 116～122 復習：授業配布プリント
5	聴覚障害の理解と保育	4章聴覚障害について学ぶ。8章評価の仕方を知る。 予習：教科書p60～64 123～130 復習：授業配布プリント
6	視覚障害の理解と保育	4章視覚障害について学ぶ。 予習：教科書p65～70 復習：授業配布プリント
7	言語障害の理解と保育	4章言語障害について学ぶ。 予習：教科書p71～76 復習：授業配布プリント
8	気になる子どもの理解	5章気になる子どもを理解する。9章子どもの発達を促す遊びを学ぶ。 予習：教科書p77～86 131～142 復習：授業配布プリント
9	自閉スペクトラム症の理解と保育	6章自閉スペクトラム症について学ぶ。10章他者とのかわりについて学ぶ。 予習：教科書p87～95 143～154 復習：授業配布プリント
10	限局性学習症の理解と保育	6章限局性学習症について理解する。11章職員間の協力関係について学ぶ。 予習：教科書p96～99 155～161 復習：授業配布プリント
11	A D H Dの理解と保育	6章A D H Dについて学ぶ。11章情報共有の方法を学ぶ。 予習：教科書p100～105 161～165 復習：授業配布プリント
12	多様なニーズのある子どもの理解と保育	7章多様なニーズのある子どもを理解する。12章関係機関との連携を学ぶ。 予習：教科書106～114 168～181 復習：授業配布プリント
13	障害のある子の早期発見と支援	13章障害のある子どもの早期発見と支援について学ぶ。 予習：教科書p182～193 復習：授業配布プリント
14	就学に向けての支援	14章障害のある子どもの就学先の理解や就学相談の実際について知る。 予習：教科書p194～207 復習：授業配布プリント
15	障害のある子の保育にかかわる現状と課題	15章・16章医療・保健の現状と専門機関との連携や支援について学ぶ。 予習：教科書208～220 復習：授業配布プリント

《専門科目》

科目名	保育のピアノ基礎				
担当者氏名	越智 光輝、山田 真澄、平峯 章生、渡邊 公実子、脇岡 龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園といった保育の現場での、ピアノを用いた音楽を伴う表現活動を実践できる人材となるために、個人レッスンによる指導を中心に、ピアノ曲(バイエル、ブルクミュラー、ソナチネ、ソナタ)と童謡(子どもの歌)の弾き歌いの発表について、隔週で交互に取り組む。

《授業の到達目標》

保育の現場で求められる鍵盤楽器演奏能力における基礎技能を身につけることで、
・合格基準にもとづいて童謡の弾き歌いを6曲以上習得することができる。
・参考図書 ~ より指定された1曲のピアノ曲を最後まで演奏できる。

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表45%、童謡の弾き歌いの合格数55%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

越智光輝 「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ! レベルにあわせて楽しく弾ける50曲」
三恵社

《参考図書》

(1) 進捗状況に応じて次の ~ より各自で用意する。課題曲は、レッスンカードを参照すること。
全訳バイエル 全音楽譜出版社
ブルクミュラー25練習曲 全音楽譜出版社
ソナチネアルバム 巻 全音楽譜出版社
(2) 入学前教育及び授業内で配布されたプリント

《授業時間外学習》

授業(個人レッスン)は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つかった課題を解決する場と捉え、教員から提示された次の授業までの課題曲を、自己学習しておく。(本授業では15時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

隔週で実施する童謡の弾き歌い発表及び13週目もしくは14週目に実施するピアノ実技成果発表について、実施後、授業内で改善点に関するフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:前期15週目に提示された童謡の弾き歌い発表、3・4班:前期15週目に提示されたピアノ曲及び2週目で発表する童謡[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
2	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:前期15週目に提示されたピアノ曲及び3週目で発表する童謡、3・4班:1週目に決定した童謡の弾き歌い発表[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
3	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:1週目に決定したピアノ曲及び4週目で発表する童謡[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
4	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に提示されたピアノ曲、5週目で発表する童謡、3・4班:3週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
5	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:3週目に提示されたピアノ曲及び6週目で発表する童謡[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
6	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲、7週目で発表する童謡、3・4班:5週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
7	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:5週目に提示されたピアノ曲、8週目で発表する童謡[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
8	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲、9週目で発表する童謡、3・4班:7週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
9	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:7週目に提示されたピアノ曲、10週目で発表する童謡[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
10	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲、11週目で発表する童謡、3・4班:9週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
11	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:9週目に提示されたピアノ曲、12週目で発表する童謡[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
12	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡、3・4班:11週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
13	ピアノ実技成果発表、童謡伴奏・ピアノ曲の習得	1・2班:ピアノ曲の演奏及び演奏の振り返り3・4班:11週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
14	ピアノ実技成果発表、童謡伴奏の習得	1・2班:15週目で発表する童謡、3・4班:ピアノ曲の演奏及び演奏の振り返り[時間外学習]次回にむけての練習(1時間)
15	童謡伴奏の習得、2年次における学び	童謡の弾き歌い発表、2年次での学修計画[時間外学習]発表にむけての練習(1時間)

《専門科目》

科目名	保育実習（保育所）				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

保育所における実践活動への参加を通じた豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて学ぶ。

保育の現場を通じた乳幼児の理解
保育所の機能やそこで働く保育士の職務に関する学習
日常生活や遊びの経験による、保育に必要な知識と技能の習得

《授業の到達目標》

コミュニケーション能力、創造的表現力、論理的思考力、問題解決能力、保育技術など、保育士として必要な技能を身につけて表現することができる。

保育に関する基本的知識について説明することができる。
保育の現場にかかわる安全及び健康への配慮や倫理的配慮に関して説明することができる。

《成績評価の方法》

実習先の評価25%、実習日誌50%、提出物25%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

汐見稔幸『保育所保育指針ハンドブック2017年告示版』学研,2017
汐見稔幸『平成29年度保育所保育指針まるわかりガイド』チャイルド本社,2017

《授業時間外学習》

名札・自己紹介グッズの作成や絵本・紙芝居、素話の練習など、保育の現場にかかわる活動を自己学習の中で行う。
また、教材研究と指導案の作成を行う。

《課題に対するフィードバック等》

保育所での実習は、1年次に10日間行う。実習園からの評価は実習後の授業内においてフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所理解	保育所における実習の目的と内容についての学習 実習施設の特徴と役割についての理解
2	デイリープログラム	保育所の状況と実習園についての理解 保育の現場における1日の流れについての学習
3	発達過程	乳幼児の発達の理解 発達過程に沿った生活の実際についての学習
4	乳幼児理解	乳幼児の生活を通じた保育者の関わりについての理解 生活や遊びへの参加を通じた保育の実際についての学習
5	保育技術の習得	乳幼児の遊びにかかわる保育技術（絵本の読み聞かせ、指遊びなど） 生活における保育技術（言葉かけ、環境設定、時間配分など）
6	保育課程	保育課程の意義 保育の実態の理解（体験学習）
7	指導計画の概要	指導計画の理解 指導計画の事例研究（グループワーク）
8	指導計画立案	部分実習における指導計画立案 指導計画の確認（プレゼンテーション）
9	協働	職員間の役割分担とチームワークの理解 組織的に行われる保育の実際についての学習
10	家庭・地域社会との連携	保育の現場における記録の目的と方法についての学習 保護者とのコミュニケーションに対する理解
11	保育方法	保育所保育指針にみる「子どもの最善の利益」についての理解 「子どもの最善の利益」を具現化する取り組みについての学習
12	倫理観	保育士の倫理観の理解 保育の現場における事例の研究（グループワーク）
13	安全・健康	安全・安心、健康的な環境づくり、疾病予防への配慮についての理解 日常環境の安全点検についての理解（グループワーク）
14	部分実習	部分実習の内容と実際についての理解 立案した指導計画に基づいた保育活動の学習
15	実習の振り返り・今後の課題	実習（保育所）における評価結果についての振り返り 実習経験の総括

《専門科目》

科目名	保育実習（施設）				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育士の職域は広がっており、保育所以外の養護系や障害系育成系などの施設などにおいての活躍が期待されている。本実習では、それぞれの施設の役割・機能、利用・児者の置かれた状況などについて学ぶとともに、具体的な支援についての計画を作成したり、関係機関との連携の方法などについてグループワークなどで学びを深める。

《テキスト》

松本峰雄監修「より深く理解できる施設実習」萌文書林、2021
②「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会、2018

《授業の到達目標》

施設の役割・機能について、体験を基に具体的な説明ができる。

一人一人の支援計画を理解し、考察した内容を説明できる。

一人一人の状態を踏まえた支援を考え実践できる。

実習における観察・記録・省察を通して施設保育における実践を改善することができる。

《成績評価の方法》

実習施設による評価50%、実習後の提出物の状況・実習への参加状況・実習日誌の記述内容（上記到達科目を観点とする）50%とする。

総合評価60点以上を合格とする。

《授業時間外学習》

保育実習指導（施設）履修が必須です。実習までに、これまでに学修した科目を振り返るようにしてください。振り返りシートや自己評価票作成を各自で行い、2年次実習に向けて準備を進めてください。地域連携のための学びとして、実習先の地域の関係機関などの情報を調査するなど積極的に行ってください。

《課題に対するフィードバック等》

振り返りシートや自己評価票を実習先の評価と比較して、今後の学修に役立てます。実習中は訪問担当教員から実習内容についてフィードバックしていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	施設実習	居住型施設・通所型施設等における実習の実施
2	施設の一日の流れの理解	施設での生活、一日の流れ（生活の流れやプログラム・活動の流れ）について実践を通して理解する
3	施設の役割・機能の理解	実習での具体的な取り組みを通して、実習施設の役割は何か、どのような機能を有しているのかについて理解する
4	観察と記録を通じた利用児・者の理解	実習施設の利用児・者の観察と記録を通して、実際のくらしや活動といった実態を把握し、将来を見据えた支援について考察を深める
5	個々の状態に応じた支援	実習施設の利用児・者との関わりと支援を通して、それぞれの施設の役割・機能、個々の対象に対する支援方法や技術について理解を深める
6	計画に基づく活動や援助・支援	実習施設の理念・目的、個々の支援計画に基づく活動や援助・支援がどのように実践されているのかを理解し、活動・支援を実行して理解を深める
7	利用児・者の心身の状態に応じた対応	日々の生活を通して健康状態や心理状態、疾病の状態は変化する。施設職員はどのように関わっているのかを理解し、自らも実践する
8	利用児・者の活動と生活の環境	実習施設の利用児・者の活動・生活環境はどのような目的で構成・構築されているか、実践を通して理解する
9	健康管理・安全対策の理解	実習施設において、利用児・者及び職員の健康管理や安全対策はどのように実行されているか、職員との関わりや聞き取り等によって理解し、実践する
10	支援計画の理解と活用	個人情報の取り扱いについて十分に配慮したうえで、利用児・者の状態と支援計画について理解し、どのように支援計画が活用されているか実践を通して理解する
11	記録に基づく省察・自己評価	実習日誌へ日々記録していくなかで、自らの関わりや考えを言語化し整理することを通して、実習施設及び利用児・者への理解を深めることや支援の改善に努める
12	保育士・生活支援員の業務内容の理解	実習施設における保育士及び生活支援員等はどういった役割・業務内容を担っているか、観察や実践を通して理解する
13	職員間の役割分担と連携についての理解	様々な専門職が配置されている施設において、各職員がどのような役割を担い、また利用児・者のためにどのような連携が行われているかを実習を通して理解を深める
14	保育士の役割と職業倫理についての考察	施設実習を通して、社会福祉領域の専門職である「保育士」の役割とは、職業倫理とは何か、具体的な説明を試みる
15	施設実習の振り返りと自己課題の明確化	実習施設での観察・実践、実習日誌への記録による振り返りを通して、保育士としての自己評価及び今後の新たな課題について明確にする

《専門科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

幼稚園等における5日間の教育実習（観察・参加実習）を行う。保育活動に参加しながら幼児の活動や教員の実践を観察し、幼稚園における1日の保育の流れ、幼児の活動と生活、保育環境の在り方を学ぶとともに、幼稚園教諭の仕事内容を知る。将来教諭となるべく必要な知識を体験的に学ぶ。

《授業の到達目標》

幼児との関わりや観察・参加を通して、幼児の発達段階ごとの活動の実態や興味関心について把握することができる。子どもの姿や保育者の援助・配慮等について、事実を即して記録することができる。幼児に接しその成長の援助を行うことに喜びを感じ、誠意をもって実習に取り組むことができる。各自のテーマや当該実習のねらいに即した振り返りができる。

《成績評価の方法》

実習日誌50%、実習先評価40%、提出物10%で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

○幼稚園教育要領および同解説 ○小櫃智子他編著「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社 2015 ○実習の手引き（国際学院埼玉短期大学幼児保育学科）

《参考図書》

○「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」および同解説
○大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020
○植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006
○無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研 2017

《授業時間外学習》

[実習前の学習] 実習生として求められる最低限の社会的良識を備えておく。○絵本読み、手遊びなどの基礎を学んでおく。○実習園にてオリエンテーションを実施し、その記録をまとめておく。[実習中] ○当日の実習日誌を記録し、次の日の課題を把握する。○その他、教育実習指導の講義内容を再確認し、事前・事後学習を十分に行うこと。

《課題に対するフィードバック等》

実習日誌等の提出物は内容を確認した上で受領、返却を行う。実習園からの指導について適時フィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	5日間の観察・参加実習	保育に参加し、幼稚園の流れを理解する、子どもの行動を理解し関わり方を学ぶ、教師の役割・職務について学ぶ。[事前・事後学習]実習日誌を作成する
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門科目》

科目名	造形表現領域指導法				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「保育の造形」で学んだ知識と技能を基に、以下の造形表現活動に関する指導方法を学び、模擬保育を計画・実践する。乳幼児の発達段階、季節、行事を考慮した造形表現活動について、保育の現場を想定した具体的な指導技術について、造形表現活動の目的と内容に応じた指導案の作成についてまた、制作活動のほかにグループディスカッションや発表、ICTの活用を行う。

《授業の到達目標》

子どもの発達段階を踏まえた造形表現活動の指導ができる。保育の現場（対象年齢、環境、季節などの諸要素）を考慮した造形活動を提案することができる。子どもの姿（想定）を元に、造形表現活動の指導案を書くことができる。模擬保育の実践を通して、子どもの造形表現活動における指導上の課題を明らかにすることができる。

《成績評価の方法》

授業ごとのリフレクションシート（40%）、指導案（40%）、最終課題レポート（20%）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	造形活動の意義と位置づけ	教育要領・保育指針における造形表現の意義や位置づけに関する学習（ワークシート） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
2	造形表現活動の指導（子どもの姿）	造形表現活動中の子どもの姿に関する学習（4・5月の制作、ディスカッション） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
3	造形表現活動の指導（環境構成）	造形表現活動における環境構成に関する学習（6・7月の制作、ディスカッション） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
4	造形表現活動の指導（声かけ・対応）	活動中の子どもへの声かけ、対応に関する学習（8・9月の制作、ディスカッション） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
5	造形表現活動の指導（手順・説明）	活動中の子どもへの手順・説明に関する学習（10・11月の制作、ディスカッション） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
6	造形表現活動の指導（配慮事項）	活動前中後における配慮事項に関する学習（12・1月の制作、ディスカッション） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
7	造形表現活動の指導（準備と片付け）	活動の前後の準備と片付けに関する学習（2・3月の制作、ディスカッション） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
8	造形表現活動の指導（展示、返却）	制作物の展示・返却方法に関する学習（制作、ディスカッション） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
9	指導案の作成	上記の指導 ～ を踏まえた指導案の作成（ワークシート） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
10	模擬保育（個別発表）	指導案に基づく模擬保育の実践、子どもの視点に関する学習（発表、ワークシート） [事前学習] 指導案の作成と準備 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
11	模擬保育（個別発表）	指導案に基づく模擬保育の実践、子どもの視点に関する学習（発表、ワークシート） [事前学習] 指導案の作成と準備 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
12	模擬保育（個別発表）	指導案に基づく模擬保育の実践、子どもの視点に関する学習（発表、ワークシート） [事前学習] 指導案の作成と準備 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
13	模擬保育（個別発表）	指導案に基づく模擬保育の実践、子どもの視点に関する学習（発表、ワークシート） [事前学習] 指導案の作成と準備 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
14	造形表現活動の指導（保護者への対応）	保護者に伝えることを目的としたドキュメンテーション（記録）に関する学習（制作） [事前学習] 素材の選定・準備 [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）
15	保育における造形表現の指導を考える	保育における造形表現活動の指導を考える（ディスカッション・プレゼンテーション） [事後学習] 振り返りと課題の整理（ICTの活用）

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。
* スケッチブック（B4）、デジタルカメラ（スマートホ含む）、図工セットを毎回持参すること。

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018
厚生労働省『保育所保育指針解説』、フレーベル館、2018
北沢昌代・畠山智宏・中村光絵『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版』開成出版、2019
磯部錦司・福田泰雅 他『保育のなかのアート』小学館、2015
槇英子『保育をひらく造形表現 第2版』萌文書林、2018

《授業時間外学習》

授業で身につけた知識と技法を、実習や学校内の制作活動で応用することなどを通して自己学習を行う。また授業時間内において完成できなかった課題については、提示した期日までに自己学習の中で完成させ、提出すること。（本授業では、15時間程度の時間外学習が必要。）

《課題に対するフィードバック等》

授業ごとの課題（リフレクションシート）の内容は、次回の授業で全体に共有しフィードバックを行う。最終課題にはコメントを付してフィードバックする。

《専門科目》

科目名	保育実習指導（施設）				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

保育士の職域は広がっており、児童福祉施設や障害者支援施設等における専門職としての活躍が求められる。本授業では、保育実習（施設）に向け、その意義や目的を理解し、実習遂行のための基礎的な知識・技術について学ぶ。また、地域連携のために必要な情報収集の方法などについても学ぶ。実習終了後の振り返りにおいて、今後の学修課題を明確化する。

《授業の到達目標》

施設の役割・機能を具体的に説明することができる。
 個別の支援計画の意義を理解しそれを論ずることができる。
 一人一人の状態に応じた関わりや支援の在り方を理解し、検討することができる。
 施設保育士としての自らの実践の課題を明確にし、述べることができる。

《成績評価の方法》

実習前試験60％，グループワーク・発表20％，実習書類・ワークシート20％で評価する。
 総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

松本峰雄監修「より深く理解できる施設実習」萌文書林,2021
 「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会,2018
 大豆生田啓友ら編著「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規,2021

《授業時間外学習》

保育実習（施設）履修が必須です。
 実習までに、これまでに学んだ科目を振り返るとともに、実習先についての情報を調べるなどして、丁寧に把握するようにしてください。実習が終了した後に、振り返りシートや自己評価票を作成し、2年次の実習に向けての準備をしてください（授業時間外学習時間は15時間です）。

《課題に対するフィードバック等》

現場では施設内・外のような職種、関係者との連携が必須です。ワークではメンバー間での意見交換のスキルや実習に取り組む姿などを評価し、適宜コメントします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習の意義と目的、実習の流れ	保育実習（施設）の意義と目的、実習全体のプロセス 予習：テキスト 2～9、30～40ページを読む・復習：授業配布プリント
2	実習における基本的態度と各施設の把握	養護系・障害系・育成系各施設名と対象児・者の理解 乳児院の理解 予習：テキスト 10～11、60～63、114～117ページを読む 復習：授業配布プリント
3	オリエンテーション・養護系施設の役割と概要	養護系施設の法的位置づけとその役割 母子生活支援施設の理解 予習：テキスト 12～13、64～67、118～121ページを読む・復習：授業配布プリント
4	体調管理・養護系施設の日課と特質	養護系施設の一日の流れと施設の特質 児童養護施設の理解 予習：テキスト 14～15ページ、68～71、122～125を読む・復習：授業配布プリント
5	環境理解・障害系施設の役割と概要	障害系施設の法的位置づけとその役割 障害児入所施設 予習：テキスト 16～17、72～83、126～143ページを読む・復習：授業配布プリント
6	調書作成・障害系施設の日課と特質	障害系施設の一日の流れと施設の特質 障害者支援施設 予習：テキスト 26～27、100～107、168～175ページを読む・復習：配布プリント
7	日誌の書き方・障害系施設の日課と特質	障害系施設の一日の流れと施設の特質 児童発達支援センター 予習：テキスト 18～19、144～151ページを読む・復習：授業配布プリント
8	施設理解・育成系施設の役割と概要	育成系施設の法的位置づけとその役割 児童相談所一時保護所 予習：テキスト 28～29、96～99、164～167ページを読む・復習：授業配布プリント
9	記録の書き方・育成系施設の日課と特質	育成系施設の一日の流れと施設の特質 児童厚生施設 予習：テキスト 24～25、160～163ページを読む・復習：授業配布プリント
10	指導計画作成・実習関係書類の作成	指導計画の作成方法 実習施設や大学へ提出する書類の作成方法の学修 予習：テキスト 44～54ページを読む教科書 復習：実習書類下書き作成
11	指導案の作成・実習日誌の目的と作成方法	部分実習・責任実習における計画案の作成方法 予習：テキスト 56～59ページを読む・復習：教科書と授業配布プリント
12	実習前試験・確認	実習前試験・実習施設の理解に関するまとめ 予習：テキスト1～59ページの振り返り・復習：授業配布プリント
13	実習日誌の作成方法	実習後の施設への提出物と提出・受取方法，大学への提出物，お礼状の書き方 予：178～182ページを読む 既習事項の振り返り 復：試験結果の振り返り
14	実習の総括と自己評価	実習先評価や実習日誌・自己評価から見る自己課題の明確化：今後の学修計画の検討 予習：実習日誌・自己評価の振り返り 復習：自己課題の明文化
15	実習報告会	実習総括と自己評価のまとめと発表 予習：自己課題の明文化資料 復習：既習事項の振り返り